

(お知らせ)

「原子力発電所に関する情報について」の福島県への説明について

平成 19 年 4 月 17 日  
東京電力株式会社  
福島第一原子力発電所  
福島第二原子力発電所

平成 19 年 3 月 19 日、福島県生活環境部県民安全領域原子力安全グループ宛に原子力発電所に関する情報提供があり、翌日、福島県から当社へその内容の連絡がありました。

これまでに、福島第一原子力発電所および福島第二原子力発電所における本情報提供に係る内容について調査をしておりましたが、調査結果がとりまとまったことから、本日、福島県へご説明を行いましたので、お知らせいたします。

なお、福島県へのご説明内容については、添付資料をご参照ください。

以 上

<添付資料>

- ・福島県へ情報提供のあった件に関する調査結果報告

<参考：福島県への情報提供内容>

- 志賀が初めてでなく、第一でもすでに50年代に同様の自然に制御棒が引き抜けることは経験済み。2本抜けた状況を経験している。運がよくそこでわかって再度入れたので問題にはならなかった。それ以降改善したので最近はないと思う。
- 2号機で高圧注水系、原子炉隔離時冷却系のどちらかの戻り弁を閉状態で運転した結果、弁が破損し、汚染水が大量に漏れ出し、そのほとんどが一般排水溝から海へ流れた。残ったのは社員が徹夜で回収し、倉庫へ保管した。
- このような件はいくらでもあり、膿を出し切るのは無理と思う。

以 上

平成 19 年 4 月 17 日

福島県へ情報提供のあった件に関する調査結果報告

東京電力株式会社  
福島第一原子力発電所  
福島第二原子力発電所

平成 19 年 3 月 19 日福島県生活環境部県民安全領域原子力安全グループへ情報提供のあった、制御棒引き抜け事象と高圧注水系（または原子炉隔離時冷却系）戻り弁破損事象の 2 件に関して調査した結果を報告いたします。

1. 制御棒引き抜け事象

本件については、平成 19 年 3 月 30 日に経済産業省原子力安全・保安院に提出した「当社水力発電設備、火力発電設備、原子力発電設備に対するデータ改ざん、必要な手続きの不備その他同様な問題に関する点検結果についての報告」における点検・調査において確認しており、調査の結果、表-1 に示す通り福島第一原子力発電所で 4 件（2, 3, 4, 5 号機）、福島第二原子力発電所で 1 件（3 号機）の制御棒引き抜け事象が確認された。（平成 19 年 3 月 30 日お知らせ済み）

福島第一の 4 件のうち、福島第一 2・3・5 号機の 3 件はいずれも昭和 50 年代に発生した事象であるが、引き抜けた制御棒はそれぞれ 1 本、5 本、1 本であり、提供された情報にある 2 本の引き抜け事象は確認されなかった。

2. 高圧注水系（または原子炉隔離時冷却系）戻り弁破損事象

本件については、平成 19 年 3 月 30 日に経済産業省原子力安全・保安院に提出した「当社水力発電設備、火力発電設備、原子力発電設備に対するデータ改ざん、必要な手続きの不備その他同様な問題に関する点検結果についての報告」における点検・調査では、今回福島県へ情報提供された内容に該当するような事象は確認されていない。

また、原子力施設情報公開ライブラリー（ニューシア：NUCclear Information Archives）に登録されている福島第一・福島第二原子力発電所各プラントの運転開始以降の法令に基づくトラブル報告等（電気事業法、実用炉規則、大臣通達に基づく報告等）から、提供された情報に該当する高圧注水系または原子炉隔離時冷却系のトラブル報告等を抽出し、確

認したところ、昭和 59 年 10 月 17 日、福島第一原子力発電所 2 号機にて発生した「復水貯蔵タンクしゃへい壁内のバルブの不具合に伴い、同タンク内の水が漏れ出た事象」の内容が、ほぼ情報提供内容と一致しており、当該事象が情報提供された事象であると判断した。

本事象は、法令に基づくトラブルとして定められたとおり国へ報告されている。また、報道発表もされている。

なお、確認された事象の概要は以下の通りである。

福島第一原子力発電所 2 号機は定期検査中であった昭和 59 年 10 月 17 日、高圧注水系の手動起動試験を行ったところ、復水貯蔵タンクしゃへい壁内の高圧注水系戻り弁のボンネットフランジ部のパッキンがずれたことによって、ここからタンク内の水が漏れ出した。漏れた水は、同タンクのしゃへい壁下部にあった雨水口から管理区域外に漏えいしたことが考えられたため、放射能測定を実施した。その結果、タンク周辺の一部土壤に漏えいが認められた。また、タンク周辺の一般排水路における溜り水の放射能を測定したが、検出限界以下であり発電所敷地外への漏えいは認められなかった。漏えい量は、最大 0.4 m<sup>3</sup>と推定された。なお、汚染されたタンク周りの土壤は、削土しドラム缶詰処理して固体廃棄物貯蔵庫へ保管された。

以 上

表－１ 制御棒引き抜け事象の調査結果

(１) 福島第一における制御棒の引き抜け事象

プラント	発生日時	事象の概要	臨界の有無	改ざんの有無	公表状況
福島第一 3号機	S53.11.2	制御棒駆動系水圧制御ユニットの隔離作業を実施した際、制御棒5本が引抜けた(04ポジション、06ポジション、08ポジション、10ポジション、12ポジション)。	有	有	H19.3.22 公表済み
福島第一 5号機	S54.2.12	制御棒駆動系水圧制御ユニットの隔離作業を実施中、制御棒1本が28ポジションまで引抜けた。	無	無	H19.3.22 公表済み
福島第一 2号機	S55.9.10	制御棒駆動系水圧制御ユニットの隔離作業を実施中、制御棒1本が20ポジションまで引抜けた。	無	無	H19.3.22 公表済み
福島第一 4号機	H10.2.22	原子炉圧力容器耐圧試験中に逃がし安全弁が動作し、炉圧が低下するとともに制御棒34本が02ポジションまで引抜けた。	無	無	H19.3.30 公表済み

(２) 福島第二における制御棒の引き抜け事象

プラント	発生日時	事象の概要	臨界の有無	改ざんの有無	公表状況
福島第二 3号機	H5.6.15	制御棒駆動系がノンリターン運転のまま制御棒駆動系水圧制御ユニットの隔離作業を実施したため、制御棒2本が引抜けた(22ポジション、12ポジション)。	無	無	H19.3.20 公表済み